

一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム
大学地域連携課題解決支援事業 2016 実施報告

サービ斯拉ーニングセンター開講科目「シチズンシップ・スタディーズⅠ」G1 クラス（BKC 開講）において、以下の通り環びわ湖大学・地域コンソーシアム大学地域連携課題解決支援事業 2016 助成事業を実施したので報告します。

プロジェクト名（活動テーマ）：
草津野菜の地産地消サポート、農業生産者および消費者の高齢化対策、生産者と消費者が
つながる環境づくり

1. 取組み体制：

立命館大学びわこ・くさつキャンパス（BKC）の学生 4 名が、農業パートとマーケティングパートの 2 部門に分かれて事業を実施した。農業合宿や農場での作業については JA 草津市のサポートを受けた。草津市農林水産課は事業実施に関わる助言を、大学担当者の宮下は学生への指導・助言を行い、高橋が経費の管理等の事務業務を担当した。agRits（agriculture＋ Ritsumeikan Univ.）と名付けられた学生チームの氏名と担当は右の表の通りである。

農業パート	長田 拓馬（生命科学部 3 回生）
	清水 知紗子（経済学部 4 回生）
マーケティングパート	上田 隼也（生命科学部 3 回生）
	加藤 徹也（生命科学部 3 回生）

平成 28 年度活動メンバー一覧

2. 背景・目的：

BKC が立地する滋賀県草津市は、近畿圏で有数の葉物野菜の生産地である。しかしながら、平成 27 年度事業で明らかとなったのは、立命館大学学生の草津野菜の認知度は極めて低いということである。同様の傾向は、広く草津市民にも当てはまることが予想される。その原因の 1 つとして、農業の営まれている地域は草津市のなかでも琵琶湖畔の一部に限られており、産業別就業人口の比率でみると、第 1 次産業従事者は全就業者の 1.5% に過ぎない（平成 22 年国勢調査）。そこで本事業では、草津野菜の魅力を発掘し、それらの魅力を広く市民に向けて発信していくことを目的とした。実際の活動においては、農業パートとマーケティングパートに分かれ、活動を行った。



ガイダンスの様子

3. 活動内容：

▽農業パート

【主な活動】

- ・2泊3日の農家合宿(8月6～8日)
- ・SOFIX 技術を用いたほうれん草と小松菜の栽培

【詳細】

約 2,000 棟のビニルハウスを有する近畿圏最大の施設野菜産地である

実際に農業をやってみた(耕運から播種まで)



R RITSUMEIKAN

ほうれん草と小松菜の栽培の様子（現地報告会資料より）

草津市北山田地区にて農家合宿を行った。受け入れ農家での栽培は主にみず菜、メロンなどである。年間を通して安定した生産を続け、近畿圏に向けて出荷している。合宿では水菜の生産の一連の流れを経験することができた。また、農家の方から、農業に関わる地域課題や農業政策の問題点、加えて農業に対する思いなどを聞くことができた。

この経験を踏まえて、自ら野菜の栽培にも挑戦した。JA 草津市の協力のもと実験農場をお借りし、立命館大学生命科学部久保幹教授の協力を得ながら、SOFIX 技術を活用して無農薬のほうれん草と小松菜を栽培した。SOFIX とは、土壌中の微生物量や窒素循環、リン循環を数値的に表すことを可能とした土壌診断技術である。ただし結論を述べると、今回無農薬の野菜を栽培することができなかった。農地に元から含まれていた残留農薬が原因である。

▽マーケティングパート

【主な活動】

- ・草津のお土産作りコンテスト入賞（ほうれん草のキッシュを作成）
- ・農業和歌コンテスト応募、学生団体総選挙応募
- ・みなくさまつり(12月4日)の企画

【詳細】

草津野菜のブランド化を試みた。草津野菜の「魅力を発信する」ことに焦点をあて、市民団体が主催する「草津お土産作りコンテスト」に応募したり、以下に示すようないくつかのメディアに取り上げられることによって、草津野菜の PR に寄与することができた。また、広く草津市民に直接、SOFIX 技術を使って栽培した野菜を PR するために、12月4日に開催されたみなくさまつりに出店した。

▽みなくさままつり

みなくさままつりでは、SOFIX 技術を用いてつくったトマトと一般のトマトを用意し一般の方に試食を行った（A・B だけしか情報がわからないようにしてブラントテストを実施）。100 名に試食テストを行った結果、76 名がソフィックストマト（B）の方が美味しいと回答する結果となり、ソフィックス技術を用いた野菜が一般の農薬を用いて作る野菜よりもより美味しく、そして安全に栽培できる事が証明できた。



みなくさままつりでの活動の様子

▽現地報告会

これらの活動の成果を受けて、お世話になった関係各位を招いた現地報告会を 1 月 10 日、JA 草津市本店にて行った。着実に草津野菜の魅力を知り、地域とのつながりを形成することができていることが評価されたが、SNS を使った PR やより市民に見えやすい形で活動を日常化させることなどが課題として出された。



現地報告会の様子

4. 活動成果と次年度の計画（課題）

▽学びと成長

活動報告会にあたって、学生がまとめた学びと成長は次の通りである。

- ・個人ではなくチームで活動していく時は自分の意思や希望よりもチーム全体としてベストな結果が出る行動や意思決定をするべき。
- ・想定外のアクシデントが発生しても柔軟に対応できるようにあらゆる不具合の可能性を考慮してプロジェクトを進めるべき。
- ・チーム内部はもちろん、外部も含めて積極的な会話から良いアイデアが生まれるため、直接顔を合わせて話し合う場を定期的に設けるべき。

▽活動の評価とメディアへの掲載

以上の活動を通じて、草津野菜の魅力向上と PR に取り組んできたところであるが、これらの成果はいくつかの受賞やメディアへの掲載にもつながった。具体的には以下の通りで

あり、これもまた今年度の成果である。

- 1) 「帰省で自慢！草津のお土産を作ろう」（主催：草津の元気と自慢土産づくり隊）でのレシピー部門での入賞
- 2) 「環びわ湖大学地域交流フェスタ 2016」（主催：環びわ湖大学・地域コンソーシアム）での活動奨励賞受賞
- 3) 「キラリと輝く学生+R な人」立命館大学ホームページ
http://www.ritsumeit.ac.jp/features/r_na_hito/entry/?post=71
- 4) 日本農業新聞、平成 29 年 1 月 24 日



入賞・受賞の賞状とともに

▽次年度の計画（課題）

平成 28 年度の事業を契機として、agRits は平成 29 年度の本事業とは切り分けて引き続き活動することになっている。今年度の失敗を活かして SOFIX 技術を活用した無農薬野菜を作ることである。

これらの取り組みと連携しながら本事業としては、引き続き以下のような内容で生産者・生産地での地域活動や市民との交流、草津野菜の情報発信を進めていく。

- ・農家合宿や生産者への聞き取りを通じて、草津野菜の特性や生産者の生活課題や生産地の地域課題を把握する。
- ・道の駅などで定期的にイベントを開催し、賑わいを創出する。加えて、秋に開催予定のみなくさまつりへの出店や SNS を通じた情報発信によって草津野菜を PR する。

